



いわゆる境界域梗塞の運動症候  
－再考－

横地健治

1

9m

35w, 生後1ヵ月で低体温, 独歩4y10m

股屈曲内転で下肢持ち上げ  
→大殿筋の骨盤後傾ができず  
→骨盤前傾・股屈曲外転位への  
虚脱

- 股屈曲  
股伸展は対抗できない
- 頸後屈
- 肩のひけ(後外方へ)

2



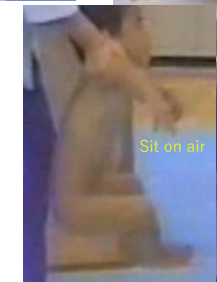
過活動筋群への対抗運動



- 股屈曲 対抗として股伸展活動する
- 頸後屈
- 肩のひけ(後外方へ)

過開口  
Anticipatory postural  
adjustmentsの範疇

3



強い体幹屈曲(=腹直筋過活動)  
により骨盤後傾する  
→股屈筋は無力量化する  
→股伸筋が稼動しやすくなる

肩のひけがあると、手は前下では使いにくい  
股屈曲位では、前下で足が使いやすい

4





5



6



7



8



1y8m



股屈筋バネの短縮張力を  
脊柱伸展・骨盤後傾張力で  
対抗する

右股伸展荷重の失敗  
→ 股屈筋バネの短縮  
→ 下肢前方振り上げ・体幹後傾

9

2y6m



上肢挙上後方支え足踏み歩き

過開口

- ・ 体幹前傾を肩後方から支える
  - ・ 肩後上方向へのひけで体幹前傾を支える
- ・ 股屈曲あり
  - ・ 強い股屈曲バネを前倒れの重力で対抗する
- ・ 頻回な小刻み足踏みをする
  - ・ 股伸筋のelastic recoilを利用する

頻回な交互手打ちつけ

腕を前下出しする筋の  
elastic recoilを利用する

10



- 股屈・膝屈・体幹前傾・上肢後方位 股屈曲に対応
- 軽度開脚・骨盤の振り子
- 足踏み・極小歩幅前進（軽度開脚）
- 小刻みすり足前進
- 一側足の宙浮き 振り子の停滞

強い股屈曲バネへの対応

11



- 体幹前傾
- 股屈曲
- 肩ひけ

12

## いわゆる境界域梗塞の運動障害

- いわゆる境界域梗塞にみられる患者の運動障害の本体は、下肢運動で、運動開始に伴う基盤筋活動の抑制が不完全であることである。これにより股伸展可動域の制限、反抗運動がみられる。具体的には、股屈筋がバネ様張力を保持しており、これに對抗するための重心の後方化がみられる。また、踏みしめの反抗運動がみられる。
- 上肢運動でも肩伸展・内転・内旋・頸伸展の筋活動がわずかな優勢はみられる。手の前方に出にくさはある。手指の偏位、過大な指運動もあり。過大な開口もみられる。